研究分野	資源生態	部名	漁場環境部
研究課題名	アカイカ未利用資源調査		
予算区分	水産総合研究センター費		
試験研究実施年度・研究期間	H18～H20		
担当	大水　理晴		
協力・分担関係	遠洋水産研究所		

〈目的〉

青森県沖合から宮城県金華山沖の太平洋海域におけるアカイカの生態や漁場形成、海洋環境等を調査することにより、「北大平洋アカイカ資源」を評価する。

〈試験研究方法〉

図１に示した調査海域において、試験船開運丸（208 トン）で 3～5 時間のイカ釣り操業と CTD による水深 500m以浅の水温・塩分観測、ADCP による潮流観測を実施した。

○調査時期

1 次調査：11 月 14 日～11 月 18 日

2 次調査：11 月 26 日～12 月 3 日

3 次調査：12 月 10 日～12 月 14 日

4 次調査：1 月 14 日～1 月 22 日

〈結果の概要・要約〉

2 次調査の東経 144 度 20 分・北緯 40 度 45 分の地点で CPUE が 1.9（尾/機/時間）、4 次調査では東経 143 度 30 分・北緯 39 度以南で CPUE が 0.6～2.1（尾/機/時間）と比較的多く漁獲された（図２）。

また、アカイカの外套背長の組成については、1 次調査では 23～42 cmの範囲でモードは 29・31 cm、2 次調査では 28～43 cmの範囲でモードは 33～35 cm、3 次調査では 21～43 cmの範囲でモードは 31～32 cm、4 次調査では 29～44 cmの範囲でモードは 35～39 cmであった（図３）。

〈今後の問題点〉

・本事業は今年度で終了するが、来年度以降「アカイカ漁場探査シミュレーションモデル開発事業」を実施し、精度の高い漁場探査を目指してゆく。

〈次年度の具体的計画〉

・アカイカの漁場形成を左右する要素を特定するため、CTD・ADCP による水温・塩分、潮流観測、クロロフィルａと栄養塩の観測を実施する。

・魚群探知機などの機器を使用し、アカイカの分布を把握する。

〈結果の発表・活用状況等〉

・試験船開運丸による調査・操業結果について、随時、八戸漁業用無線局を通じて中型いか釣船へ情報提供すると共に、ウオダス（漁海況情報）で公開した。

〈主要成果の具体的なデータ〉

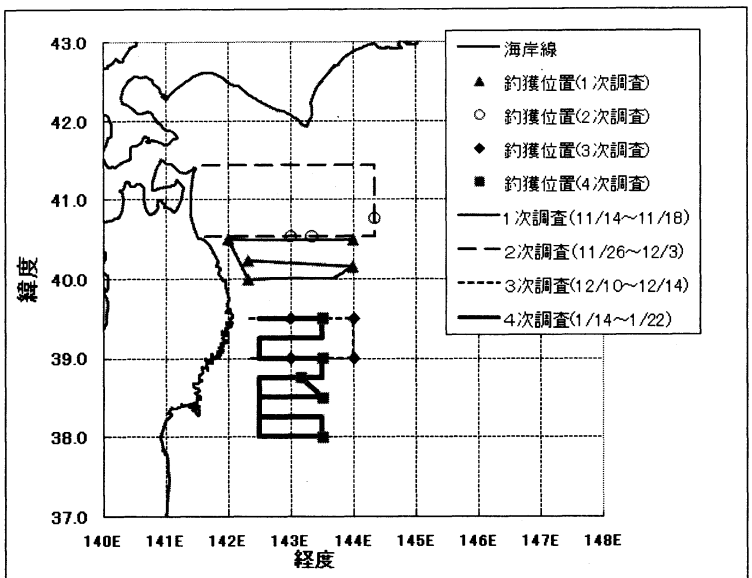

図1　アカイカ未利用資源調査　調査海域

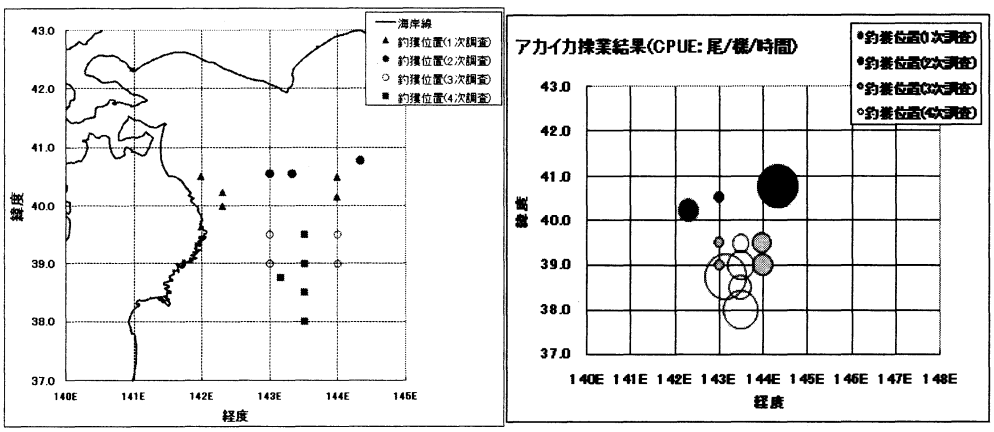

図2　アカイカ未利用資源調査　操業点と操業結果

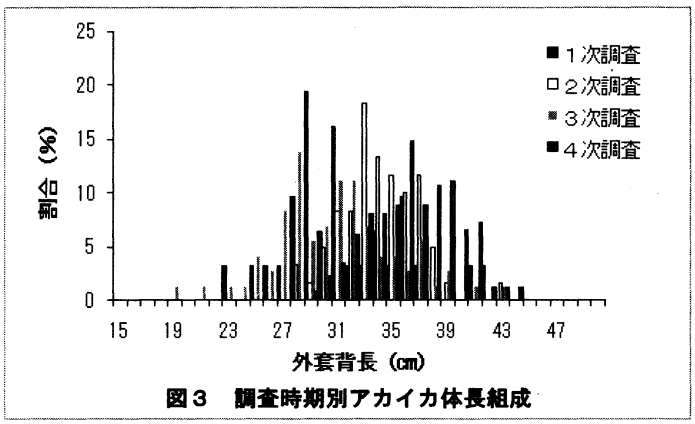

図3　調査時期別アカイカ体長組成